-Regular Articles-

腎移植におけるシクロスポリンの AUC₀-4 推定法の評価

青山隆彦, ^{*a*} 松本宜明, ^{*, *a*} 清水万紀子, *a* 福岡正道, *a* 木村利美, *b* 国分秀也, *b* 吉田一成, *c* 矢後和夫^b

Evaluation of AUC₀₋₄ Predictive Methods for Cyclosporine in Kidney Transplant Patients

Takahiko Аоуама,^{*a*} Yoshiaki Матѕимото,^{*,*a*} Makiko Shiмizu,^{*a*} Masamichi Fuкиока,^{*a*}

Toshimi KIMURA,^b Hideya KOKUBUN,^b Kazunari YOSHIDA,^c and Kazuo YAGO^b

Department of Clinical Pharmacology and Toxicology, Showa Pharmaceutical University,^a 3–3165 Higashitamagawagakuen, Machida 194–8543, Japan, Department of Pharmacy, Kitasato

University Hospital,^b 1–15–1 Kitasato, Sagamihara 228–8555, Japan, and Department

of Urology, Kitasato University,^c 1–15–1 Kitasato, Sagamihara 228–8555, Japan

(Received October 5, 2004; Accepted February 7, 2005)

Cyclosporine (CyA) is the most commonly used immunosuppressive agent in patients who undergo kidney transplantation. Dosage adjustment of CyA is usually based on trough levels. Recently, trough levels have been replacing the area under the concentration-time curve during the first 4 h after CyA administration (AUC_{0-4}) . The aim of this study was to compare the predictive values obtained using three different methods of AUC_{0-4} monitoring. AUC_{0-4} was calculated from 0 to 4 h in early and stable renal transplant patients using the trapezoidal rule. The predicted AUC_{0-4} was calculated using three different methods: the multiple regression equation reported by Uchida et al.; Bayesian estimation for modified population pharmacokinetic parameters reported by Yoshida et al.; and modified population pharmacokinetic parameters reported by Cremers et al. The predicted AUC_{0-4} was assessed on the basis of predictive bias, precision, and correlation coefficient. The predicted AUC_{0-4} values obtained using three methods through measurement of three blood samples showed small differences in predictive bias, precision, and correlation coefficient. In the prediction of AUC_{0-4} measurement of one blood sample from stable renal transplant patients, the performance of the regression equation reported by Uchida depended on sampling time. On the other hand, the performance of Bayesian estimation with modified pharmacokinetic parameters reported by Yoshida through measurement of one blood sample, which is not dependent on sampling time, showed a small difference in the correlation coefficient. The prediction of AUC_{0-4} using a regression equation required accurate sampling time. In this study, the prediction of AUC_{0-4} using Bayesian estimation did not require accurate sampling time in the AUC_{0-4} monitoring of CyA. Thus Bayesian estimation is asumed to be clinically useful in the dosage adjustment of CyA.

Key words—cyclosporine; area under the concentration-time curve; Bayesian estimation; regression analysis

緒言

シクロスポリン(CyA)はタクロリムス、プレド ニゾロンとともに、腎移植における免疫抑制剤とし て繁用されている薬剤である.従来、CyAの投与 量決定の指標には投与直前の薬物血中濃度を用いて いたが、近年、腎移植において投与後0-4時間の AUC(AUC0-4)を適切な値にコントロールするこ

e-mail: matsuy@pha.nihon-u.ac.jp

とで急性拒絶反応や CyA による腎障害の発現を減 少させると報告され、¹⁾トラフ値に替わる投与量決 定の指標として AUC₀₋₄ が利用されている.^{2,3)} AUC₀₋₄の算出を内服後 0-4 時間の5ポイントに よる台形法を用いて行う場合、5ポイントの採血は 患者にとって精神的、肉体的に多大な負担であり、 経済的な面からもより少ない採血ポイントによる AUC₀₋₄の推定法が必要と考えられる.打田らは1 -3ポイントの採血より AUC₀₋₄を推定する方法と して、腎移植患者において、CyA マイクロエマル ジョン製剤服用時の AUC₀₋₄ 推定式(AUC₀₋₄U) を報告しているが、採血ポイントが1ポイントの場

[&]quot;昭和薬科大学薬物動態学, ⁰北里大学病院薬剤部, ^c北 里大学泌尿器科学 *現, 日本大学薬学部

合,臨床上,用量設定を行うには正確性が十分では なく、少なくとも2ポイントの採血が投与設計には 必要と報告している.⁴⁾ Bayesian 法は少ない採血ポ イントから患者背景を考慮し、薬物動態パラメータ を推定する方法として知られている. AUC₁₋₄ 推定 において血中濃度のみからの重回帰推定を行う AUC₀₋₄Uの式に比べ、患者背景を考慮する Bayesian 法による AUC₀₋₄ 推定が優れていることが考え られるが、それぞれの推定法を比較した報告はない. CvA の薬物動態モデルは吸収遅延を考慮したモデ ル5,6)や、術後経過時間を考慮したモデル7)が報告さ れているが、これらのモデルは非常に複雑であり、 臨床における使用は困難と考えられる。一方、コン パートメントモデルにおける Bayesian 法による薬 物動態パラメータの推定は、バンコマイシン、アル ベカシンなどの薬剤において既に臨床で用いられて いるため CyA についても臨床上応用可能と考えら れる.本研究では、報告された2つの経口2-コン パートメントモデルの母集団パラメータ^{8,9)}を基に Bayesian 法により推定した AUC₀₋₄ 及び AUC₀₋₄U と実測 AUC0-4 との比較を目的として、相関、推 定値の偏り、推定値と実測値との誤差を算出し検討 した.

対象及び方法

対象 腎移植後5週以内を早期,1年以上 1.

Vol. 125 (2005)

を安定期として、北里大学病院並びに多施設共同試 験のプロトコールによって腎移植が行われた患者, 21 例(移植後早期 3 例 9 回測定,安定期 18 例 35 回測定)を対象とした.早期,安定期腎移植患者の 血中濃度時間曲線を Fig. 1 に、患者背景を Table 1 に示す.本研究の対象患者中、安定期18例は、 Yoshida らの報告⁸⁾における対象患者に含まれる.

安定期18症例についてはCyAマ 2. 服用法 イクロエマルジョン製剤を1日2回, 朝夕食後に投 与した. 早期3 症例については CyA マイクロエマ ルジョン製剤を1日2回、朝夕食前に投与した、投 与量は、内服直前の血中濃度(C0)又はAUCを参 考に、臨床症状に合わせ適宜増減した、採血は朝投 与後に行った.

3. 実測 AUC₀₋₄ (Full AUC₀₋₄)の算出方法 C0, 内服後1 (C1), 2 (C2), 3 (C3), 4 (C4) 時 間の5ポイントの血中濃度を用いて台形法により算 出した.

4. Sparse Sample AUC₀₋₄の算出方法 $AUC_{0-4}U$ の算出:Table 2 に示す血中濃度の組み合わせによ って13通り算出した. AUC₀₋₄Yの算出: Yoshida らの母集団パラメータ⁸⁾(Table 3)に準じ、さらに ラグタイム 0.7 hr. ラグタイムの個体間変動を CV =120%とした. このパラメータを用いて Bayesian 法により患者毎、血中濃度の組み合わせ毎の薬物動 態パラメータを算出した.算出した薬物動態パラ



Fig. 1. CyA Concentration-Time Curves in Early (A) and Stable (B) Renal Transplant Patients

В

	Early kidney transplant patients	Stable kidney transplant patients			
Age	48.0±13.0	31.9±7.1			
Weight (kg)	58.0 ± 5.9	56.5 ± 8.2			
Dose (mg)	$247.8 \!\pm\! 76.6$	90.7 ± 22.4			
Dose (mg/kg)	4.3 ± 1.4	$1.6 {\pm} 0.3$			

Table 1. Patient Characteristics

Mean±S.D.

Table 2. AUC₀₋₄ Equations Obtained by Combinations of CyA Concentrations at Different Time-Points⁴⁾

Variables	Equations
C0, C1, C2	$AUC_{0-4} = 3.0 \times C0 + 0.84 \times C1 + 1.6 \times C2 + 27.8$
C0, C1, C3	$AUC_{0-4} {=} 1.12 {\times} C0 {+} 1.27 {\times} C1 {+} 2.06 {\times} C3 {+} 142.3$
C1, C2, C3	$AUC_{0-4} = 1.04 \times C1 + 1.01 \times C2 + 1.42 \times C3 - 16.4$
C1, C3	$AUC_{0-4} = 1.31 \times C1 + 2.31 \times C3 + 127.9$
C1, C2	$AUC_{0-4} = 0.84 \times C1 + 2.18 \times C2 - 17.5$
C2, C3	$AUC_{0-4} = 1.82 \times C2 + 0.94 \times C3 + 422.4$
C0, C1	$AUC_{0-4} = 7.52 \times C0 + 1.21 \times C1 + 492.2$
C0, C2	$AUC_{0-4} = 3.03 \times C0 + 1.96 \times C2 + 405.8$
C0, C3	$AUC_{0-4} = 3.20 \times C0 + 1.94 \times C3 + 966.4$
C0	$AUC_{0-4} = 9.153 \times C0 + 1261.1$
C1	$AUC_{0-4} = 1.933 \times C1 + 1139.5$
C2	$AUC_{0-4} = 2.539 \times C2 + 361.4$
C3	$AUC_{0-4} = 2.693 \times C3 + 999.5$

C0, C1, C2, C3, CyA concentration in whole blood at 0, 1, 2 and 3 hr, respectively, following oral administration.

メータを用いて各患者の血中濃度曲線を予測し、グ ラフ曲線より1時間刻みの血中濃度を読み取り台形 法で算出した. Bayesian 法による薬物動態パラ メータの算出は、母集団薬物動態プログラム NON-MEM を用いて行った. AUC₀₋₄C の算出: Cremers らの母集団パラメータ⁹(Table 4)を用いて、 AUC₀₋₄Y と同様に算出した.ただし、Cremers ら の母集団パラメータ値には個体内変動の記載がなか ったため、AUC₀₋₄C 算出時の個体内変動は、 Yoshida らの報告と同様に 16 ng/ml と設定した. Bayesian 法による推定に用いる血中濃度の組み合 わせは AUC₀₋₄U の算出と同様の組み合わせを使用 した.

5. 血中濃度測定 蛍光偏光免疫測定法(TDTM アボットジャパン株式会社)を用いた.

6. 評価項目 Full AUC₀₋₄ と sparse sample AUC₀₋₄の相関係数を算出した. 偏りの指標は mean prediction error (MPE)=(sparse sample

Table 3. Population Pharmacokinetic Parameters of CyA Reported by Yoshida⁸⁾

Population mean	Inter-individual variability (CV%)
CL/F(l/hr) = 13.4 + 0.272 * BW(kg)	26.9
Q(l/hr) = 24.5	26.4
Vc/F(l) = 60.8	98.9
Vp/F(l) = 447.0	266.8
Ka(/hr) = 3.59	141.4
	Intra-individual variability (ng/ml)
	16.0

Table 4. Population Pharmacokinetic Parameters of CyA Reported by Cremers⁹⁾

Population mean	Inter-individual variability (CV%)
F=0.5	Fixed
Vc(l) = 0.491 * BW(kg)	13.5
Ke(/hr) = 0.559	4.5
K12(/hr) = 0.567	21.5
K21 (/hr) =0.149	14.9
Ka(/hr) = 0.741	27.3
Tlag(hr) = 0.576	48.5

 AUC_{0-4} -Full AUC_{0-4})/Full $AUC_{0-4} \times 100$ を用いた. 誤差の指標は mean absolute prediction error (MAPE) = | sparse sample AUC_{0-4} -Full AUC_{0-4} | /Full $AUC_{0-4} \times 100$ を用いた.

結 果

1. 腎移植後早期3症例における推定 腎移植 後早期3症例において、それぞれの方法で推定した sparse sample AUC₀₋₄ と Full AUC₀₋₄ における相 関係数, MPE, MAPE を Table 5 に示す. 3 ポイン ト採血における推定は, AUC₀₋₄U, AUC₀₋₄C は相 関係数が高く, MPE, MAPE は小さい値を示した. AUC₀₋₄Y は他の sparse sample AUC₀₋₄ に比べ相関 が低い傾向を示した.2ポイント採血における推定 の場合, C1+C3 より推定した AUC₀₋₄U, AUC₀₋₄ Cは3ポイント採血による推定とほぼ同等の相関係 数を示した.C1 + C3 より推定した AUC₀₋₄Y は MAPE は大きい値を示したが、3 ポイント採血と ほぼ同等の相関係数を示した.1ポイント採血によ る推定はすべての推定法において MAPE は大きい 値を示した. CO を含む血中濃度の組み合わせを用

	Correlation coefficient			MPE (%)			MAPE (%)		
	AUC ₀₋₄ U	AUC ₀₋₄ Y	AUC ₀₋₄ C	AUC ₀₋₄ U	AUC ₀₋₄ Y	AUC ₀₋₄ C	AUC ₀₋₄ U	AUC ₀₋₄ Y	AUC ₀₋₄ C
C0, 1, 2	0.961	0.906	0.928	7.6	2.9	7.6	9.1	11.3	12.1
C0, 1, 3	0.951	0.886	0.917	1.2	3.6	5.2	9.0	10.7	9.7
C1, 2, 3	0.990	0.935	0.965	-4.0	5.2	1.2	4.2	6.7	4.4
C1, 3	0.985	0.923	0.990	-4.1	-8.4	-4.6	5.5	20.9	5.3
C1, 2	0.886	0.786	0.883	-8.2	-4.6	-1.5	14.1	16.4	14.6
C2, 3	0.951	0.817	0.926	-4.9	-0.3	4.0	9.2	15.5	9.3
C0, 1	0.658	0.762	0.931	24.4	0.7	-9.0	35.4	21.7	11.5
C0, 2	0.944	0.843	0.971	8.4	5.7	5.2	10.9	15.5	8.3
C0, 3	0.702	0.582	0.765	9.7	33.5	9.1	25.6	45.0	20.9
C0	0.510	0.704	0.627	31.2	16.3	10.3	49.1	27.1	30.6
C1	0.834	0.837	0.890	-30.1	-11.4	-11.0	30.1	17.1	13.7
C2	0.866	0.673	0.891	-7.7	-3.6	-2.2	15.0	22.8	13.8
C3	0.854	0.731	0.797	-5.6	7.5	-2.5	15.4	23.0	15.2

Table 5. Correlation Coefficients, Bias and Precision of AUC_{0-4} Calculated by Blood Sampling Time-Points, Compared with Full AUC_{0-4} in Early Kidney Transplant Patients

(n=3)

いた推定は、COを含まない組み合わせと比較する と相関係数が低下する傾向を示した.3ポイント採 血による推定では、すべての推定法において、CO を含む血中濃度の組み合わせによる推定はCOを含 まないC1+C2+C3を用いた推定と比較すると相 関係数が低く、MAPEは大きい値を示した.2ポ イント採血を用いた推定では、Bayesian法によっ て算出したAUC₀₋₄Y,AUC₀₋₄Cは、CO+C3を用 いて推定した場合、他の血中濃度の組み合わせに比 べ相関係数は低く、MAPEは大きい値を示した. AUC₀₋₄UはCO+C1を用いて推定した場合、他の 血中濃度の組み合わせに比べ相関係数が低く、 MAPEは大きい値を示した.1ポイント採血によ る推定では、すべての推定法においてCOによる推 定はMAPEが大きく、誤差が大きい結果を示した.

2. 腎移植後安定期 18 症例における推定 腎 移植後安定期 18 症例において、それぞれの方法で 推定した sparse sample AUC₀₋₄ と、Full AUC₀₋₄ との相関係数、MPE、MAPE を Table 6 に示す. 3 ポイント採血による推定は、AUC₀₋₄U、AUC₀₋₄Y の相関係数が高く、MPE、MAPE は小さい値を示 した. AUC₀₋₄C は、C1+C2+C3 を用いた場合の み、他の sparse sample AUC₀₋₄ と同等の結果を示 した. 2 ポイント採血による推定では、AUC₀₋₄Y は、いずれの血中濃度の組み合わせにおいても MPE ± 10%以下、MAPE 10%程度を示した. AUC₀₋₄C は C1+C2, C0+C2 を用いた推定の相関 係数が高かった. 1 ポイント採血による推定は, AUC₀₋₄Y は, 採血ポイントによらずほぼ一定した 相関係数を示した. Figure 2 に, C1 より各方法で 推定した sparse sample AUC₀₋₄ と Full AUC₀₋₄ の 関係を示す. 1 ポイント採血による推定では, C1 を用いた場合, AUC₀₋₄U, AUC₀₋₄C は MPE が正 に偏り, MAPE は大きく, AUC₀₋₄を過大評価す る結果を示した.

考 察

腎移植後早期3症例における推定では、3ポイン ト採血による推定は、AUC₀₋₄U,AUC₀₋₄Cは相関 係数が高く、MAPEは10%程度と、臨床上使用す ることができる可能性を示した.2ポイント採血に おいてもC1+C3による推定は3ポイント採血と同 等の相関を示し、腎移植後早期において、採血数を 減らすことにより患者の負担を軽減できると考えら れる.同一の採血ポイント数の場合、C0を含む血 中濃度の組み合わせにより推定したAUC₀₋₄は、 C0を含まない組み合わせにより推定したAUC₀₋₄は、 C0を含まない組み合わせにより推定したAUC₀₋₄は、 C0を含まない組み合わせにより推定したAUC₀₋₄は、 に比べ、いずれも相関係数は低く、MAPEは大き い傾向を示した。AUC₀₋₄の算出において、台形法 を用いた場合、C0、C1、C2、C3、C4の5ポイントの 血中濃度より4個の台形の面積を計算する。C0を 用いて計算する台形は1個であるのに対し、C1、

445

	Correlation coefficient			MPE (%)			MAPE (%)		
	AUC ₀₋₄ U	AUC ₀₋₄ Y	AUC ₀₋₄ C	AUC ₀₋₄ U	AUC ₀₋₄ Y	AUC ₀₋₄ C	AUC ₀₋₄ U	AUC ₀₋₄ Y	AUC ₀₋₄ C
C0, 1, 2	0.989	0.990	0.949	-3.0	2.7	8.0	3.2	6.4	10.8
C0, 1, 3	0.989	0.997	0.918	4.4	-2.4	13.9	3.2	4.0	14.1
C1, 2, 3	0.998	0.987	0.961	1.0	1.6	-0.1	1.3	2.6	8.3
C1, 3	0.982	0.992	0.918	6.1	-0.1	13.9	4.1	3.3	14.1
C1, 2	0.990	0.977	0.949	2.2	2.4	8.0	4.3	7.3	10.8
C2, 3	0.777	0.848	0.894	-9.0	1.4	-3.6	13.6	12.3	11.9
C0, 1	0.982	0.971	0.836	5.4	-7.4	37.7	5.5	6.8	32.5
C0, 2	0.788	0.915	0.922	-11.8	1.3	-10.3	13.6	10.4	11.2
C0, 3	0.795	0.972	0.780	-7.6	-6.7	-18.0	17.3	9.1	20.6
C0	0.768	0.963	0.729	-6.0	-7.8	-17.2	16.2	11.0	21.1
C1	0.878	0.922	0.836	48.3	-6.2	37.7	35.6	8.5	32.5
C2	0.764	0.908	0.922	-6.8	0.8	-10.3	11.2	10.5	11.2
C3	0.783	0.924	0.779	-3.5	-5.6	-18.0	16.7	10.7	20.6

Table 6. Correlation Coefficients, Bias and Precision of AUC_{0-4} Calculated by Blood Sampling Time-Points, Compared with Full AUC_{0-4} in Stable Kidney Transplant Patients

(*n*=18)



Fig. 2. Relationship between AUC₀₋₄ Calculated by C1 and AUC₀₋₄ by Full Samples in Stable Renal Transplant Patients (n=18)

C2, C3 を用いて計算する台形はそれぞれ 2 個ある ことから、台形法を用いて AUC₀₋₄ を計算すると、 C0 に比べ C1, C2, C3 の寄与が大きいと考えられ る. このことから、C1, C2, C3 の採血ポイントが 増えることにより、Full AUC₀₋₄ との相関が高まる と考えられる. C0 を含む血中濃度の組み合わせに よる sparse sample AUC₀₋₄ と Full AUC₀₋₄ との相 関の低下は回帰式を用いた推定⁴⁾においても認めら れる. これらのことから、腎移植後早期における AUC₀₋₄ の推定には、C0 を除く血中濃度の組み合 わせが有用と考えられる.

腎移植後安定期 18 症例における推定では、C0+ C1+C3 より推定した AUC0-4C を除き, 3 ポイン ト採血による推定は相関が高く, MPE は-3.0-8.0%, MAPE は 1.3-10.8%と、臨床上使用可能で あると考えられる.1ポイント採血による推定では、 AUC0-4Yは採血ポイントによらず一定の精度を示 した.Cl を用いて推定した AUC₀₋₄C, AUC₀₋₄U は、AUC₀₋₄を過大評価する結果を示した. Figure 3 に、Yoshida ら、Cremers らに準じた母集団パラ メータ^{8,9)}を基に、体重 60 kg の患者が 1 回 100 mg, 12時間毎に服用し、定常状態に達した場合のシミ ュレーションによる血中濃度―時間曲線を示す. Cremers らに準じたパラメータ⁹を用いた場合では T_{max} が 1.7 時間であるのに対し, Yoshida らに準じ たパラメータ8)を用いた場合では Tmax が 1.3 時間と なった. Figure 4 に, Yoshida ら, Cremers らに準 じたパラメータ^{8,9)}を用いて C1 より Bayes 推定した 血中濃度―時間曲線を示す. Figure 1 に示すよう に、本研究で対象とした安定期腎移植患者は C1 が ピークとなる患者が多い.1ポイント採血による Bayes 推定は母集団パラメータの影響を大きく受け るため、Cremers らに準じたパラメータ⁹を用いて、 C1より Bayes 推定した場合,母集団パラメータの 影響を受け T_{max} を 1.7 時間付近と推定し AUC₀₋₄ を過大評価したと考えられる. Yoshida らに準じた



Fig. 3. Simulated CyA Concentration-Time Curves Using Modified Pharmacokinetic Parameter Reported by Yoshida (Broad Line) and Cremers (Thin Line) Body weight: 60 kg. Dose: 100 mg twice a day.



Fig. 4. Simulated CyA Concentration-Time Curves after Fitting Modified Population Parameters Reported by Yoshida (Broad Line) and Cremers (Thin Line) to C1 in a Typical Stable Patient

Open circles are observed concentrations. Body weight: 55 kg. Dose: 100 mg twice a day.

パラメータ⁸⁾を用いた Bayes 推定では *T*_{max} を 1.3 時 間付近と推定し,実測値に近い推定が行われたと考 えられる.

腎移植後早期における推定と安定期における推定 を比較した場合,AUC₀₋₄Yにおける安定期の推定 は、早期の推定に比べ相関が高い傾向を示した.一 方,AUC₀₋₄Cにおける早期の推定は、安定期の推 定に比べ相関が高い傾向を示した.これは、Yoshidaらに準じたパラメータは腎移植後半年以上経過 した患者より算出⁸⁾され、Cremers らに準じたパラ メータは腎移植後3ヵ月以内の患者が半数と3ヵ月 以上の患者が半数より算出⁹⁾されているためと考え られる.CyAの体内動態は移植術後経過日数によ り変化することが報告されている.^{7,10)}本研究の対 象においても早期3 症例のピーク値は C2 又は C3 であるのに対し、安定期 18 症例のピーク値は、全 35 回の測定において 34 回が C1 と, T_{max} が小さく なる傾向が認められた. 1 ポイント採血より CyA の AUC₀₋₄ を Bayesian 法による推定を用いて算出 する場合,術後経過日数を考慮して母集団パラメー タを選択する必要があると考えられる. また, C1 +C3 により Bayesian 法による推定を用いて算出し た AUC₀₋₄ は,早期,安定期ともに高い相関係数 を示した. CyA マイクロエマルジョン製剤服用時 の T_{max} は 1 又は 2 時間を示す患者が 93.6%と報告 され,⁴⁾ Yoshida ら, Cremers らに準じたパラメー タを用いたシミュレーションにおいても T_{max} はそ れぞれ 1.3 時間, 1.7 時間であった. T_{max} の前後の 採血ポイントを用いて薬物動態パラメータを Bayes 推定することにより,ピーク値をより正確に推定し, Full AUC₀₋₄ との相関が高まると考えられる.

Yoshida ら, Cremers らの報告の対象患者には, 腎移植患者が含まれ,母集団パラメータの変動要因 である体重はそれぞれ 56.1±11.2 kg,70±15 kg で ある.本研究の対象患者も腎移植患者であり,変動 要因である体重は Yoshida ら, Cremers らの報告の 対象患者背景と重なるため,本研究対象患者の CyA マイクロエマルジョン製剤の体内動態を推定 するために Yoshida ら, Cremers らが報告した母集 団パラメータを用いることは妥当と考えられる.し かし,本研究の対象患者は Yoshida らの報告にお ける対象患者に含まれているため,AUC₀₋₄Y につ いては推定誤差を過小評価した可能性が考えられる.

以上のことから, 腎移植における CyA の AUC₀₋₄ モニタリングにおいて, 適切な母集団パラ メータを用いた Bayesian 法による推定は, 回帰式 による AUC₀₋₄ の推定と同等, 若しくは, より正 確に推定を行うことが可能と考えられる.

REFERENCES

- Mahalati K., Belitsky P., Sketris I., West K., Romauld P., *Transplantation*, 68, 55–62 (1999).
- Asanuma H., Shishido S., Mori Y., Satoh H., Nakai H., Honda M., Hasegawa A., Nippon Syouni Jinhuzenn Gakkai Zasshi, 22, 9–12 (2002).
- Hanahusa T., Takahara S., Yazawa H., Tanaka T., Okuyama A., *Kon-nichino Isyoku*, 14, 764–766 (2001).

- Uchida K., Tominaga Y., Haba T., Katayama A., Satoh T., Watanabe I., Inagaki H., Kimata T., Yoshida A., Takeda A., Fukuda M., Toda S., Uemura H., Gotoh Y., Morozumi K., Takagi H., Kon-nichino Isyoku, 14, 187-192 (2001).
- Debord J., Risco E., Harel M., Meur Y., Buchler M., Lachatre G., Chantal G., Pierre M., *Clin. Pharmacokinet.*, 40, 375–382 (2001).
- Rousseau A., Leger F., Le Meur Y., Saint-Marcoux F., Paintaud G., Buchler M., Marquet P., *Ther. Drug Monit.*, 26, 23-30 (2004).

- Grevel J., Post B. K., Kahan B. D., Clin. Pharmacol. Ther., 53, 651–660 (1993).
- Yoshida K., Kimura T., Hamada Y., Saito T., Endo T., Baba S., Shimada S., *Transplant. Proc.*, 33, 3146–3147 (2001).
- Cremers S. C., Scholten E. M., Schoemaker R. C., Lentjes E. G. W. M., Vermeij P., Paul L. C., Hartigh J., Fijter J. W., *Nephrol. Dial. Transplant.*, 18, 1201–1208 (2003).
- Monchaud C., Rousseau A., Leger F., David
 O. J., Debord J., Dantoine T., Marquet P., Eur. J. Clin. Pharmacol., 58, 813-820 (2003).